

誰もが楽しくスポーツできるプログラムを



ユニバーサルスポーツワークショップ 実施報告書

2020年2月20日～22日

日本福祉大学

仙台ユニバーサルスポーツ研究会

西九州大学 アダプテッド・スポーツ研究会

公益財団法人国際障害者年記念ナイスハート基金

0.はじめに



様々な社会的な障壁が考えられる中で、私たちナイスハート基金は、障害について、あるいは障害のある方について、スポーツや音楽などの親しみやすい切り口で、子どものときから共に体験する場をつくり、理解を深めていただく活動を行っています。

共に楽しみながら学ぶことのできる手法として、ワークショップに着目し、その考え方や活動の実際について多くのみなさまに知っていただくため、専門家を交えた研究会を組織し、障害のある方を対象とした活動をなさっている方を対象とした取組を行って参りました。

2012年度には、全国的に展開をしている私たちの事業である「ふれあいのスポーツ広場」をベースとして、障害の有無に関わらず楽しみながら体験できるスポーツとして「ユニバーサルスポーツ」を、ワークショップの要素に取り入れ開発し、そのプロセスを通じて障害理解のための指導者育成に寄与しようという目的のもと、このプログラムを企て、福島県相馬市内において実際に子どもたちに体験をいただきました。その後も毎年、東日本大震災の被災県である宮城や愛知県等において開催を積み重ねて参りました。

今年度は、佐賀県において、障害のある子どもたち等を対象に楽しんでいただけるものをつくるため、共に学べる場として開催いたしました。

最後になりましたが、今回のスポーツワークショップ全体のコーディネートにご尽力頂いた西九州大学教授山田力也先生を始め、日本福祉大学藤田紀昭先生、兒玉友先生、そして仙台ユニバーサルスポーツ研究会 代表 佐藤一樹さん、皆様方に厚く御礼申し上げます。

2020年3月

公益財団法人国際障害者年記念ナイスハート基金

1.実施概要

(1)目的

障害の有無にかかわらず、誰もが楽しく参加できる多様なプログラムを生み出すため、ワークショップをベースとし、よりシンプルで、よりわかりやすいカリキュラムを研究し、指導者誰もがそれぞれ自らのフィールドで手軽に実践してもらえるような、カリキュラムづくりを目指し開催いたしました。

具体的には、私たちが全国的な事業「ふれあいのスポーツ広場」で取り組んでいる、ユニバーサルなスポーツづくりをテーマとして、ワークショップ的な手法を用い、共に学びながらプログラムづくりを行えるよう、障害のある方に関わるスポーツ指導者及び学んでいる大学生を対象とし、スポーツプログラムづくりのワークショップと、モデル事業の実施を行いました。

今回は、西九州大学神埼キャンパスを中心に開催し、室内で団体で楽しむことのできる競技開発をテーマとして実施いたしました。またモデル事業として、地元の放課後等デイサービス4施設総勢50名弱の皆様にご体験いただきました。

(2)事業概要

①主催
日本福祉大学
仙台ユニバーサルスポーツ研究会
西九州大学アダプテッド・スポーツ研究会
公益財団法人国際障害者年記念ナイスハート基金

(3)日時
2020年2月20日～2月22日

(4)会場
西九州大学神埼キャンパス/ 佐賀県勤労身体障害者教養文化体育館

(5)参加者
39名
※モデル事業実施時には83名の参加

2.スケジュール

2月20日	内容	備考
8:00	SFJ059 名古屋(中部)発	日本福祉大
9:35	福岡空港着	
7:35	ANA1276 仙台空港発	佐藤一樹さん
9:50	福岡空港着	
6:55	JAL305 羽田空港発	ナイスハート基金
8:55	福岡空港着	
10:00	福岡空港発(祐徳バス)	
12:00	西九州大学神埼キャンパス到着 昼食 38個	322部屋 3号館2F 842-8585 佐賀県神埼市神埼町尾崎4490-9
13:30	オープニング ・このプログラムの目的 ・自己紹介のセッション	TEL: 0952-52-4191
14:00	session A 活動紹介又は自己紹介 ・日本福祉大学 ・仙台ユニバーサルスポーツ研究会 ・西九州大学	
15:00	休憩	
15:15	session B ユニバーサルスポーツについて ・考え方の整理	
16:00	session C グループワーク ・小グループでスポーツプログラムのワークショップ	
17:30	終了/移動(ホテル龍登園送迎バス 正シート30名・補助席10名)	
18:00	ホテル到着	宿泊 佐賀・川上峡温泉 ホテル龍登園
18:30	夕食	840-0203 佐賀県佐賀市大和町大字梅野120 TEL: 0952-62-3111/nishida@ryutouen.co.jp
19:30	懇親会	

2月21日		内容	備考
7:30	朝食		
8:40	西九州大学へ移動（ホテル龍登園送迎バス 正シート30名・補助席10名）		842-8585 佐賀県神埼市神埼町尾崎4490-9 TEL：0952-52-4191
9:00	session D グループワーク ・グループワークの続き		
11:00	・発表にむけた準備		
12:00	昼食 38個		
13:00	session E グループ発表 ・討論をしたプログラムをシェア		
15:00	session F 全体のまとめ ・モデルプログラムづくりにむけた整理とリハーサル		
17:30	終了／移動（ホテル龍登園送迎バス 正シート30名・補助席10名）		
18:00	ホテル到着		佐賀・川上峡温泉 ホテル龍登園 840-0203 佐賀県佐賀市大和町大字梅野120 TEL：0952-62-3111
18:30	夕食(宴会付き：ビール、日本酒、ウィスキー、焼酎、ソフトドリンク飲み放題)		
2月22日		内容	備考
7:30	朝食		
8:40	ホテル出発（ホテル龍登園送迎バス 正シート30名・補助席10名）		
11:00	佐賀県勤労身体障害者教養文化体育館到着 スポーツ競技の体験と交流 ・準備体操 ・現行のふれあいのスポーツ広場プログラムより2競技紹介 ・新規プログラムの紹介		840-0851 佐賀県佐賀市天祐1-8-5 （佐賀県総合福祉センター敷地内） TEL：0952-24-3809
12:45	閉会		
13:00	昼食 39個		
14:30	佐賀県勤労身体障害者教養文化体育館出発（祐徳バス）		
16:00	福岡空港到着		
18:55	SFJ066 福岡空港発		日本福祉大
20:10	名古屋(中部)着		
19:10	ANA3121 福岡空港発		佐藤一樹さん
21:00	仙台空港着		
18:00	JL326 福岡空港発		ナイスハート基金
19:30	羽田空港着		

3.このプログラムの目的

opening session

ナイスハート基金 鈴木 実

(1)「ふれあいのスポーツ広場」の経過

1981年（昭和56年） 国際障害者年の事業としてナイスハート基金の前身である国際障害者年全国推進協議会が実施。

1982年（昭和57年） ナイスハート基金設立。主たる事業として、年間3回程度を関東近隣にて実施。

単独開催による
ふれあいのスポーツ広場



1992年（平成4年） 自動車総連結成20周年記念事業として、組合員が参加しながら行う参加型福祉事業として実施。年間7会場。

1997年（平成9年） 自動車総連結成25周年記念事業として、東京都体育館において中央大会を実施。全国的な展開のはじまり。17会場において開催。この年からプログラムを抜本的に改正。エアロビック、フライングディスクの取組を始める。

2003年（平成15年） フライングディスクの県大会と同時開催のスタイルを島根県において実施。長野県および秋田県においても取り組む。

第1回
島根県障害者
フライングディスク大会
ふれあいのスポーツ広場



2004年（平成16年） 藤田紀昭氏（当時日本福祉大学教授）とのコラボレーションの取組を始める。静岡県島田大会。以来、年々拡大。

(2)「ふれあいのスポーツ広場」の経過

じゃんけんダンス
デビュー
平成17年度島田大会



2006年（平成18年） 藤田紀昭先生提案による、ユニバーサルスポーツプログラムとして、風船バレー等の競技がスタート。

2007年（平成19年） 障害者週間事業として、東北福祉大学において、ユニバーサルスポーツフェスタを開催。仙台大学との交流が始まる。

2011年（平成23年） 仙台大学障害者スポーツサポート研究部Co-Act.との取組が始まる。

仙台大学
デビュー
平成23年度横浜大会



2012年（平成24年） 過去最大の38都市において開催。両大学ともに過去最大の参加
2014年（平成26年） 過去最大38都市において開催。過去最多の15,994名の参加。

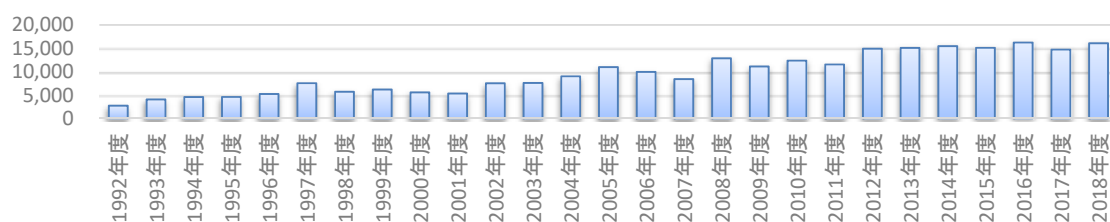
2015年（平成27年） 過去最大38都市において開催。過去2番目の15,103名の参加。
2016年（平成28年） 過去最大41都市において開催。過去最多の16,225名の参加。
2017年（平成29年） 40都市において開催。14,727名の参加。

西九州大学アダプテッド・
スポーツ研究会
平成30年度から本格デ
ビュー



2018年（平成30年） 47都道府県全てで実施（沖縄県宜野湾大会は2019年3月6日実施予定）

ふれあいのスポーツ広場参加者の推移



(3)このプログラムの目的

- ①ユニバーサルなスポーツプログラムの創造
 - ・ 障害の有無に関わらず
 - ・ 難しくなく
 - ・ 安全で
 - ・ 楽しむことのできる
- ②「ふれあいのスポーツ広場」へのプログラムとして取り組む
 - ・ 2020年度への取組として採用する
- ③障害のある子どもたちに、室内で楽しめるスポーツプログラムを提供する

※ふれあいのスポーツ広場 現在のプログラム

10:30	開会式
10:50	準備体操
11:00	第1競技 ロープ送り
11:20	第2競技 ホール・イン・ワン
11:40	第3競技 風船バレー
12:00	休憩 昼食
12:30	アトラクション
13:00	第4競技 スポーツ競技団体による指導 エアロビック フライングディスク 日本福祉大学 仙台ユニバーサルスポーツ研究会 西九州大学 アダプテッド・スポーツ研究会
14:00	閉会式
14:20	閉会

4.ユニバーサルスポーツの普及に関する調査研究_要約

ナイスハート基金 鈴木 実

ユニバーサルスポーツプログラム 研究会

ユニバーサルスポーツの普及に関する 調査研究～目的

- ▶ 当基金の設立目的である、よりよい社会づくりのために協働し共生社会づくりへの一助とするため、障害者福祉サービス事業所及びユニバーサルスポーツの協働団体と連携し、障害の有無に関わらず行うことのできるスポーツプログラムの充実に寄与することを目的に、この研究を実施する。
- ▶ (1) 障害福祉サービス事業所におけるユニバーサルスポーツの取組の状況を明らかにする。
- ▶ (2) 地域を単位として、社会参加のためのユニバーサルスポーツの取組と障害福祉サービス事業所との連携の状況を明らかにする。

(1) 実施主体

- ▶ 公益財団法人国際障害者年記念ナイスハート基金
- ▶ 及び有識者による研究会
 - ▶ 藤田 紀昭さん、日本福祉大学スポーツ科学部長・教授
 - ▶ 金川 千広さん、立命館大学産業社会学部教授
 - ▶ 藤田 なるみさん、桐蔭横浜大学スポーツ健康政策学助教授

(2) 調査・研究の期間

- ▶ 2019年10月～2020年3月
- ▶ 調査・研究
- ▶ 対象のユニバーサルスポーツを行っている団体への訪問調査
- ▶ 文献調査
- ▶ 障害福祉サービス事業所に対するアンケート調査

2019事例の選定

団体名	活動地域	法人種	所属団体	障害者施設	障有者団体との連携	取組内容
めぐろスローエアロビクスサークル	市区町村	なし				
スポーツネット弘前	市区町村	NPO			○	
ジャパンユニバーサルスポーツネットワーク	市区町村	NPO				
クラブしゅきーず	市区町村	NPO			○	
共生・共生マリン実行委員会	都道府県	なし		△		
船越市障がいスポーツクラブ	市区町村	NPO			○	
香江町障害者スポーツクラブUNITIVE291	市区町村	なし			○	
日本ウオーキングサッカー協会	全国	一般社団				○
日本バウアーティスティックスイミング協会	全国	なし	△			○
日本ろうせん(レーボール)協会	全国	なし	△			○
日本卓球(レー)連盟	全国	なし				○

2019事例団体の取組(1)

団体名	取組の経緯	取組内容
めぐろスローエアロビクスサークル	創設団体による障有者活動の支援	無し
(NPO)スポーツネット弘前	地域にあるクラブの支援の一環として実施	クラブの日本代表選手、大会への出場選手は有り。
(NPO)ジャパンユニバーサルスポーツ・ネットワーク	障有者に対する社会参加の支援	障有者だけでなく、非障有者も参加した活動時間でのクラブ・大会への参加
(NPO)クラブしゅきーず	福祉・スポーツ	無し。若しくは市行事・大会への出場は有り。
共生・共生マリン実行委員会	障有者に対する活動の支援	無し。自己申告による障有者参加は有り。
(NPO)船越市障がいスポーツクラブ	クラブへの支援	フライングディスク、ソフト(レー)、卓球、全国大会への参加
香江町障害者スポーツクラブUNITIVE291	障有者に対する活動の支援	障有者だけでなく、非障有者も参加した活動時間でのクラブ・大会への参加
(一社)日本ウオーキングサッカー協会	障有者に対する活動の支援	障有者だけでなく、非障有者も参加した活動時間でのクラブ・大会への参加
日本バウアーティスティックスイミング協会	障有者に対する活動の支援	障有者だけでなく、非障有者も参加した活動時間でのクラブ・大会への参加
日本ろうせん(レーボール)協会	障有者に対する活動の支援	障有者だけでなく、非障有者も参加した活動時間でのクラブ・大会への参加
日本卓球(レー)連盟	障有者に対する活動の支援	障有者だけでなく、非障有者も参加した活動時間でのクラブ・大会への参加

2019事例団体の取組(2)

団体名	取組の経緯	取組内容
めぐろスローエアロビクスサークル	創設団体による障有者活動の支援	無し
(NPO)スポーツネット弘前	障有者に対する活動の支援	障有者だけでなく、非障有者も参加した活動時間でのクラブ・大会への参加
(NPO)ジャパンユニバーサルスポーツ・ネットワーク	障有者に対する活動の支援	障有者だけでなく、非障有者も参加した活動時間でのクラブ・大会への参加
(NPO)クラブしゅきーず	障有者に対する活動の支援	障有者だけでなく、非障有者も参加した活動時間でのクラブ・大会への参加
共生・共生マリン実行委員会	障有者に対する活動の支援	障有者だけでなく、非障有者も参加した活動時間でのクラブ・大会への参加
(NPO)船越市障がいスポーツクラブ	障有者に対する活動の支援	障有者だけでなく、非障有者も参加した活動時間でのクラブ・大会への参加
香江町障害者スポーツクラブUNITIVE291	障有者に対する活動の支援	障有者だけでなく、非障有者も参加した活動時間でのクラブ・大会への参加
(一社)日本ウオーキングサッカー協会	障有者に対する活動の支援	障有者だけでなく、非障有者も参加した活動時間でのクラブ・大会への参加
日本バウアーティスティックスイミング協会	障有者に対する活動の支援	障有者だけでなく、非障有者も参加した活動時間でのクラブ・大会への参加
日本ろうせん(レーボール)協会	障有者に対する活動の支援	障有者だけでなく、非障有者も参加した活動時間でのクラブ・大会への参加
日本卓球(レー)連盟	障有者に対する活動の支援	障有者だけでなく、非障有者も参加した活動時間でのクラブ・大会への参加

(特非)志木総合地域スポーツ・レクリエーションセンター(埼玉県志木市)
通称：クラブしっきーず

- ▶ 2000年12月 任意団体として発足
- ▶ 2002年 NPO法人化
- ▶ 小学校を活動場所として、総合型地域スポーツクラブを設立。
- ▶ 活動途中から、地域の高齢化に伴って、高齢者対象も健康づくり活動も行い始める。
- ▶ 障害のある方の要望から相談を受け、健康づくりの活動が広がる。
- ▶ 現在は、スポーツを享受した子どもたちの遊びの活動、高齢者や障害者向けの健康増進プログラム、拠点でのサロン活動など多岐にわたる。

共生・共走マラソン実行委員会
(大阪府大阪市)

- ▶ 1993年 共生・共走リレーマラソンスタート
- ▶ 自分たちで働く場をつくろうと始めた大阪障害者就業センターの10周年記念事業として計画。
- ▶ 市内回廊に障害のある方の権利擁護運動の活動もされる。
- ▶ 市内他の運動仲達が参加していた24時間共生マラソンを中止・中止された。
- ▶ 過去には、11月14日時に11時間であったり、8時間・24時間の2バージョンを創出された。
- ▶ 2011年頃から5時間共生・共走リレーマラソンになった。

日本卓球バレー連盟
(京都府京都市)

- ▶ 1974年 近畿の筋ジストロフィー症児のための養育学校の父兄会が実施。
- ▶ 1976年 障害の障害者が楽しくできる団体競技として、京都障害者スポーツ協会の管内全域に普及活動を行う。
- ▶ 1995年 第24回全国身体障害者スポーツ大会愛媛県大会の予選大会で初めて公開競技として開催される。
- ▶ 2002年 日本卓球バレー連盟設立
- ▶ 2005年 日本卓球バレー連盟編「卓球バレー競技規則」の制定。

要点の整理
1.取組のきっかけから生まれる3つの類型

- ▶ ①障害程度の重い方にもできるスポーツを
～全国規模の競技団体での取組
- ▶ ②障害のある方にも関わらず共に参加することを重視した取組
- ▶ ③参加しやすいことを重視される総合型地域スポーツクラブでの取組

2.競技性～勝敗の有無

- ▶ ①障害が起因する不利益を減らす工夫
- ▶ 技術修正（フットキックサッカー）
- ▶ 障害の程度によって点数化し、チームの合計点順位をチーム順位（フットキックサッカー）
- ▶ 競技者は、同じく座って座って競技しなければならぬ（卓球バレー）

2.競技性～勝敗の有無

- ▶ ②勝敗がない場合の動機付けのための工夫
- ▶ 観客をせず、特に印象に残る演技に対して「ナイスパフォーマンス賞」を贈る（「アーティスティックスイミング」）
- ▶ 主催者がゲームタイム賞の時間を設定し、一週間のゲームをゲームタイム賞として表彰（おおたユニバーサルマラソン）

3.競技規則の明文化

- ▶ ①競技規則の運用と適合
- ▶ 競技場特有の適合させたルールを自らつくり行っている例
- ▶ 成績に特異の観念で手が増えられており、それぞれの団体が参加される際のある方がより取組やすい工夫
- ▶ 特に選手でも年齢や大会によってローカルルールがある

3.競技規則の明文化

- ▶ ②全国規模の競技団体の規則づくり
- ▶ 競技規則が公開され、公開性、透明性が高められている。また、規則の修正についても、役員会などでの議論の後に改正されるなど、よび出し意見を集約することに重きを置いている。
- ▶ また、競技場の標準規格に配慮して、大会ごとに競技規則を設定している場合や、選手権によって技規則を設定し、参加をされている方に対応をしているケースが見られる。

3.競技規則の明文化

- ▶ ③ルールがない、もしくは少ない団体
- ▶ 競技の歴史をわけていて、間口を大きなものとして、多くの参加を促す中で生まれる場づくりをしているところがある。体験してもらいたいという団体側の意志が感じられる。

4.支援・協働・資金

- ▶ ①資金面は会員・参加者による会費・参加費が主流
- ▶ 協会や部局スポーツクラブは会員の組織であると考え、基本的な運営費は会費によってまかなわれている。
- ▶ また、大会運営や大会参加では参加費を得るとしても原則に反対している。

4.支援・協働・資金

- ▶ ②行政からの支援
- ▶ 特に大会運営費においては、行政が委託、助成金などのほか、運営費の資金支援が行われている。
- ▶ 全国障害者スポーツ大会などの全国大会などへは選手が派遣という形で支援が行われている。
- ▶ また会場費の減免や使用の便宜供与など資金ではない支援も広く行われている。
- ▶ この他、スポーツ振興くじ助成事業や福祉医療機構による助成事業などの助成団体による助成事業に応募している団体も多数ある。

4.支援・協働・資金

- ▶ ③寄附金・企業などからの支援
- ▶ 寄附金については、大会運営への協賛という形での寄付受け入れが主である。
- ▶ 障害のある方に関係する活動を行っている団体で、他の活動分野における寄附金の募集はとくに多い、少ないように思える。
- ▶ また、企業等からの支援についても多くはない印象を持った。

4.支援・協働・資金

- ▶ ④他の公的団体・NPO等との協働
- ▶ 全国規模の競技団体では、日本障害者スポーツ協会や競技団体との協働は一般的存在として見られる。また、地域レベルでもスポーツセンターなどの支援も活発である。
- ▶ 障害者スポーツセンターでは、日本ふうせんバレー協会や日本バレーボール協会などの協働は、事務局を担う担当職員を派遣するなど、協働支援の形もある。
- ▶ 地域の中で活動する団体においても、社会福祉協議会、特別支援学校、他のNPOなどとの協働は数多く見られ、広報活動を中心に緊密な関係を築いている。

要点の整理と考察

- ▶ ①共通する考え方～適合性
- ▶ 競技規則がありながらも柔軟に対応し、競技参加を促していることが特徴される。
- ▶ 競技団体とは別に、個別の大会における競技規則やルールが適用されている。
- ▶ 異なる競技を担う多くの方に参加をしていただくという姿勢は共通している。
- ▶ 総合的なスポーツクラブでの取組でも、競技規則を変形し、実際に参加している方ができる形に適合している。
- ▶ 編み込まれたそれぞれの要素に共通する、誰もが楽しめるスポーツを、この二類に分類しているものだと考えられる。

要点の整理と考察

- ▶ ②スポーツに参加したいという願いの実現
- ▶ ある程度の障害のある方や、その支援者の願望から発足している団体の場合、当時存在した障害者スポーツでは参加することが難しかったため、競技を創造することから活動がスタートし、競技規則も決定過程も含めて尊重視されていると考えられる。ひとりの願いを実現すること、意義付けを大切にしている結果、競技規則の決定過程や内容の透明性、可視化が深まっていったと考えられる。
- ▶ 当時の障害者スポーツではアプローチしづらかった、介助者と共に参加できる取組として、ユニバーサルスポーツ化が進んだ例といえる。

要点の整理と考察

- ▶ ③共生社会の理念の実現
- ▶ 総合的なスポーツクラブで挙げた3つの団体は、それぞれ元々の活動は違う団体の活動としてあり、活動の中で、障害のある方に関わらない社会づくりに向けた活動のため、新たにユニバーサルスポーツを導いて参加する団体と団体を起こした共通点がある。
- ▶ スポーツ競技だけでなく、従来のエアロビクスでは参加しづらかったと見られていた高齢者層に対するアプローチとして、エアロビクスやダンスプログラム化し、結果として障害のある方も参加しやすいものとなった例もある。
- ▶ 障害に関わる者差別の垣根から、社会に訴求するための素材として、壁を乗り越えた例では、誰もがなるべく制約のない形で、一緒に取り組むことが出来るものとして、プログラム化されている。

要点の整理と考察

- ▶ ④支援体制～行政・障害者スポーツセンター等の役割
- ▶ それぞれの団体が活動をする上で、行政、障害者スポーツセンターなど、またその他の公的機関の支援が重要なものとなっている。
- ▶ 主催り活動費の提供、大会運営に関わる資金、大会、会場、交通費の補助など支援が行われている。
- ▶ 全国規模の競技団体においては、それぞれの競技種目や大会と全国規模の大会や大会での参加支援など、団体の大小に関わらず活動に合わせた支援がされている。
- ▶ また、各地の障害者スポーツセンターにおいては、団体の事務局を助けているケースが多く見られる。

要点の整理と考察

ユニバーサルスポーツ団体への支援体制

団体名	行政	障害者スポーツセンター	学校	その他
めぐるスローエアロビクスサークル (NPO)スロネット福岡	市社会福祉協議会 助成金・広報	無し	無し	助成金
(NPO)ジャパロユニバーサルスポーツ・ネットワーク	大企業、助成金、金銭的支援、広報	地域内にスポーツセンターなし	実行委員会設置、ボランティア派遣、参加者支援	情報提供
(NPO)クラブフォーエーず	助成金、事務局	地域内にスポーツセンターなし	実行委員会設置、参加者支援	助成金
民生・児童マラソン実行委員会	助成金	無し	無し	実行委員会設置
(NPO)福岡市障がいスポーツクラブ	市社会福祉協議会、事務局	地域内にスポーツセンターなし	参加者支援	助成金
日本野鳥会型障がいスポーツクラブUNITIVE201	市社会福祉協議会、事務局	無し	参加者支援	助成金
(一社)日本オーケストラ・シンガー協会	事務局	無し	無し	無し
日本バレーボール・バスケットボール協会	事務局	事務局設置、事務局員派遣、大会開催	参加者支援、地域大会開催	助成金
日本ふうせんバレーボール協会	大企業、助成金、事務局	事務局設置、事務局員派遣、大会開催	参加者支援、地域大会開催	助成金
日本バレーボール連盟	事務局	事務局設置、事務局員派遣、大会開催	参加者支援、地域大会開催	助成金

要点の整理と考察

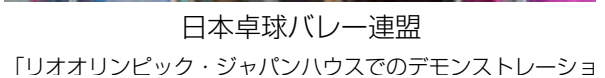
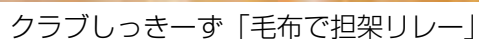
- ▶ ⑤取組を後押しする出来事
- ▶ 障害者スポーツを取り組みたいという思いがあり、小さな集まりの中で練習しながら、競技が洗練され、競技の場が増えていくことを目指す取り組みが実現することができた。
- ▶ 同時に、日本障害者スポーツ大会等の大規模な事業や、都府県を単位とする地域大会の開催、取組の拠点としての障害者スポーツセンターの設置など、開始を後押しする事例があることも理解することができた。
- ▶ 小中学校を拠点としたクラブ制度→NPO法制定→総合型地域スポーツクラブ(町田クラブ・ベニーダ)
- ▶ 全国障がい者スポーツ大会開催→障害者スポーツセンター設置→バリアフリーフェスティバル・インキングフェスティバル開催(日本バリアフリー・フェスティバル・インの協会)

このセクションの終わりに
.....考えていただきたいこと

- ▶ なぜ、「共生社会」なのか
- ▶ 障害者基本法
- ▶ 第一歩
- ▶ この目標は、全ての国民が、障害の有無にかかわらず、等しく基本的な権利を享受するにかなわない個人として尊重されるものであることに基づいており、全ての国民が、障害の有無によって区別をうけることなく、**相互に人間と個性を尊重し合いながら共生する社会**を実現するため、障害者の自立及び社会参加の支援等のための施策に関し、基本原則を定め、及び、地方公共団体等の責務を明らかにするとともに、障害者の自立及び社会参加の支援等のための施策の基本となる事項を定めること等により、障害者の自立及び社会参加の支援等のための施策を総合的に推進することを目的とする。

このセクションの終わりに
.....考えていただきたいこと

- ▶ なぜ、「共生社会」なのか
- ▶ ユニバーサルデザイン法
- ▶ 第一歩
- ▶ この法律は、すべての価値が、障害の有無、年齢等に左右されず、多様な人々と暮らすことができない個人として尊重されるものとあることが最大のポイント。障害者、高齢者等の自立した生活と共生社会の実現が確保されることの重要性に鑑み、ユニバーサル社会の実現に向けた諸施策の推進に關し、国等の責務を明らかにするとともに、ユニバーサル社会の実現に向けた諸施策の実施状況の公表及びユニバーサル社会の実現に向けた諸施策の策定等に当たっての留意事項その他の必要な事項を定めることにより、ユニバーサル社会の実現に向けた諸施策を総合的に一体的に推進することを目的とする。



障害者スポーツの主な出来事と事例紹介団体のトピック

年代	政策・制度の動向	障害者スポーツのトピック	事例紹介団体のトピック
1964		東京パラリンピック競技大会開催	
1965	第1回全国身体障害者スポーツ大会開催。 2001年全国障害者スポーツ大会に統合。	日本身体障害者スポーツ協会設立	
1970	障害者基本法制定。共生社会を目指す。	第1回日本車椅子バスケットボール選手権大会 開催。以降毎年開催。	
1974	国連障害者生活環境専門家会議「バリアフリー デザイン」提唱	大阪市長居障がい者スポーツセンター設置。移 行各地で障がい者スポーツ設置が進み現在25 カ所。	
1975		極東・南太平洋障害者スポーツ連盟 (FESPIC)設立。第1回フェスピック競技大会 開催。2006年まで開催。	
1981	国際障害者年	第1回大分国際車いすマラソン大会開催。以 降、毎年開催。	ナイスハート・ふれあいのスポーツ広場開催
1983			全京都身体障害者総合スポーツ大会水泳大会 に水泳教室終了者によるシンクロナイズドスイ ミングチームが演技発表
1985	ロナルド・メイス「ユニバーサルデザイン」提唱		
1988	第24回全国身体障害者スポーツ大会(京都)公 開競技として卓球/バレーを実施	京都市障害者スポーツセンター開設	
1990			ふうせんバレーボール振興会設立
1991		ジャパンパラ夏季競技大会開催。以降、毎年開 催。	
1992		第1回全国知的障害者スポーツ大会開催	第1回全国障害者シンクロナイズドスイミング フェスティバル開催
1993			第1回共生共走リレーマラソン開催
1995	文部科学省スポーツ振興基本計画において総 合型地域スポーツクラブを推進		
1998	特定非営利活動促進法制定	第7回長野パラリンピック冬季競技大会開催	
1999	ヒューマンセントラルデザイン国際基準機構規 格化	日本身体障害者スポーツ協会、日本障害者ス ポーツ協会に名称変更	卓球/バレー全国発表会
2001		第1回全国障害者スポーツ大会(宮城県)	
2002			クラブしっしーず設立
2004	障害者基本法改正。差別禁止の明文化		
2006	国連障害者権利条約採択～障害の医学モデル から社会モデルへ		
2008		第8回全国障害者スポーツ大会(大分)	日本卓球/バレー連盟設立
		オープン競技として卓球/バレー、ふうせんバ レー実施	
2010		第1回アジアパラリンピック競技大会(大分)	ジャパンユニバーサルスポーツ・ネットワーク設 立
2011	障害者基本法改正～障害者権利条約批准に向 けた障害者の定義の拡大と、合理的配慮概念 の導入		
	スポーツ基本法制定		
2013	障害者権利条約批准を国会承認		
2015	スポーツ庁設置		めぐろスローエアロビックサークル設立
2017			越前市障がい者スポーツクラブ設立 春江町総合型地域スポーツクラブ UNITIVE291設立 日本ウォーキングサッカー協会設立
2018			スポネット弘前ユニバーサルスポーツクラブ設 立

西九州大学 アダプテッド・スポーツ 研究会

From 山田ゼミ・ESRDサークル



神埼子どもまつり



日 時：6月23日（日）
場 所：神埼中央公園体育館
対象者：地域に住んでいる子ども
人 数：約200名
目 的：障がい者スポーツやニュースポーツを体験してもらい、
楽しんでもらうことが目的。

活動内容① ディスゲッター、スラローム、ラダーゲッター、輪投げ



工夫点①
・小さい子から小学生まで、誰もが楽しんでもらえるようにルール設定をする。



工夫点②
・最高得点を種目ごとに掲示しその点数を目標に次の子に挑戦してもらう。

活動内容② 空き缶積み、PGF、ディスクドッジ



気づき①
・人が集まる種目とそうでない種目があつた場合に、いかに上手く人を均等に流せるのか大事。



気づき②
・限られた場所の中で大型種目を入れた場合の動き（人数が多かった場合、種目を止めた時の参加できない子への配慮など）。

障がい児スポーツ教室



日 時：6月1日（土）
場 所：佐賀県勤労身体障害者教養文化体育館
対象者：知的・発達障がい児
人 数：15名
目 的：児童生徒との交流を深め、仲間と協力して物事を達成する楽しさをスポーツを通して知ってもらう。

活動内容 ①フラフープダウン・送り②ふうせんバレー③フロアホッケー



工夫点
・児童の状況に応じてルールやプログラムを変更しやすいものを選んだ。
・チーム等で一緒に参加することで、より仲良くなれるよう心掛けた。



気づき
・消極的な子や対応が難しい子がいるため、ゲームに参加できない子に、つきっきりで対応出来る人が必要。

市民公開講座



日 時：11月30日
場 所：佐賀メディカルセンター
対象者：高齢者
人 数：11人
目 的：レクリエーションを楽しむと共に、健康について知ることが目的。

活動内容 ①キャッチザステック②棒サッカー



工夫点
・参加者の方達ができるように範囲でルールを工夫する。
・コミュニケーションが取れるように学生から積極的に話しかける。

気づき
・休憩時、お茶を配ることでコミュニケーションが生まれること。



放課後児童クラブ



日 時：12月21日（土）
場 所：西郷小学校
対象者：小学校低学年
人 数：6人
目 的：体を動かし、怪我に十分に配慮しながらレクリエーションを楽しんでもらう。

活動内容① 鬼ごっこ、ドッジボール



工夫点①
・大学生はドッジボールの際、捕る動作を片手限定にして、お互いが全力で楽しめるようにした。

気づき①
・鬼ごっこのバリエーションや少人数でも楽しめる鬼ごっこを考えるべきだった。



活動内容② キックベース（野球盤のような形）



工夫点②
・男女公平になるように、本来のルールではなく野球盤のルールを採用した。

気づき②
・野球盤に変更し、1人10球ずつで行ったが、待ち時間が長かった。



ナーミー活動



日 時：6月4日（火）、11月7日（木）
場 所：佐賀県みやき町体育館
対象者：中原特別支援学校（小・中学生）中原小・中学校、
中原校区の老人クラブ、ニコニコクラブ
人 数：約200人
目 的：児童生徒と地域住民らとの触れ合いを通して、共に助け合い、支え合って生きる大切さを知ることが目的。

＊ちなみに、「ナーミー」とは「中原のみんな」という意味で1997年から続く恒例イベント。

活動内容 ①卓球バレー②キャッチザスティック③フルーツバスケット④ふうせんバレー⑤動物ポッチャ



工夫点

- ・みんなが行いやすいようにルールを工夫する。
- ・コミュニケーションをとりやすい場の雰囲気作り。

気付き

- ・他団体との連携が必要。
- ・時間ごとに種目を入れ替えていたが、ゲーム時間に差ができた。




年齢や性別、障がいの有無にとらわれずに、**全ての人が**一緒にスポーツやレクリエーションを
楽しみながら交流を深める
場づくりを 目的として活動
しています!

2002年～活動中!
頑張っています!




あそびフェスタ

2004年から毎年開催（今年度16回目）

日本レクリエーション協会の全国一斉「あそびの日」キャンペーンに合わせて開催している。
子どもから大人までのすべての人にスポーツの場を広げ、家族や地域との繋がりを深める機会である。





工夫点

- ・種目ごとに、年齢や性別に合わせた用具を準備する。
- ・誰もが楽しめるような簡単なルールを考える。

気づき

- ・対象者に合った接し方や活動を行う難しさを身をもって体験できた。



2002年から毎年開催（今年度18回目）

障がい者スポーツを中心に12種目ほどのスポーツを体験してもらう場づくりを行っている。

車いすバスケットボールチームによるデモンストレーションや体験会を行い、普段関わりの少ない障がい者スポーツについて多くの人に知ってもらい、興味を持ってもらう。




工夫点

- ・誰もが楽しめるルールを考える。
- ・種目によっては難しいルールを取り入れ、より楽しめるようにする。

気づき

- ・難しいルールを設けることで、挑戦している人がたくさんいた。
- ・障がい者スポーツについて知らない人が多かったが、体験してみても興味を持ってもらえることができた。



障がい者スポーツ教室

工夫点

- ・種目についての紹介やルール説明などをわかりやすく伝えるようにする。

気づき

- ・参加者と一緒に体験することが出来たため、参加者に合わせたルール説明やゲームの工夫をすることができた。



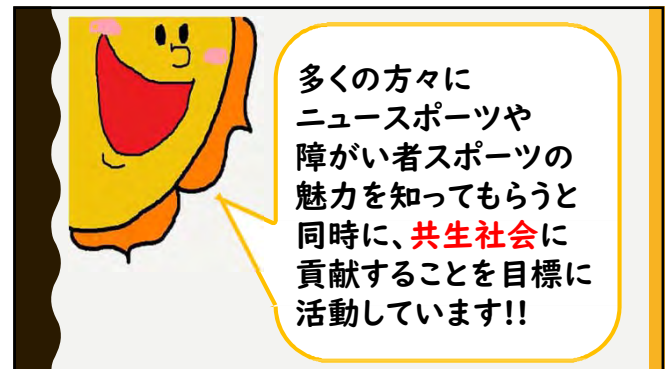
卓球バレー



ゴロちゃん

ひびき 響クリスマス





活動報告 日本福祉大学での学び

日本福祉大学 スポーツ科学部 3年 寺西恒介

2年次 スポーツフィールドワーク

- ▶ 学校コース
- ▶ 福祉コース
- ▶ スポーツクラブコース



2年次 スポーツフィールドワーク

- ▶ ノーマライゼーション
- ▶ 安全面の配慮
- ▶ 自分たちも一緒に楽しむ

3年次 教養としてのアダプテッド体育・スポーツ学

アダプテッドとは？

1人1人の発達状況や身体条件に適応させること

各項目についてまとめ、発表するという形式で、知識・理解を深める



3年次 教養としてのアダプテッド体育・スポーツ学

スポーツを360°科学する

- ▶ 各障害の種類に適応したスポーツ
- ▶ リハビリテーション・学校体育・余暇活動・競技としてのスポーツ
- ▶ アダプテッドスポーツの歴史
- ▶ 障害者スポーツの組織
- ▶ 法律と障害者スポーツ
- ▶ 障害者スポーツを支える人

3年次 スポーツ社会学

- ▶ スポーツに関する事象を、新聞やネットから抜き出し、ゼミ内で共有
→ 事象の背景や、どう感じたか等を話し合う

スポーツに関する事象を社会的に説明できる能力を養う



3年次 ボランティア活動

ふれあいのスポーツ広場

- ▶ 準備体操
- ▶ ロープ送り、ホールインワン、風船バレー
- ▶ アトラクション（ストレッチ、筋力トレーニング、体ほぐし）



滋賀、静岡、三重などでもボランティアとして参加

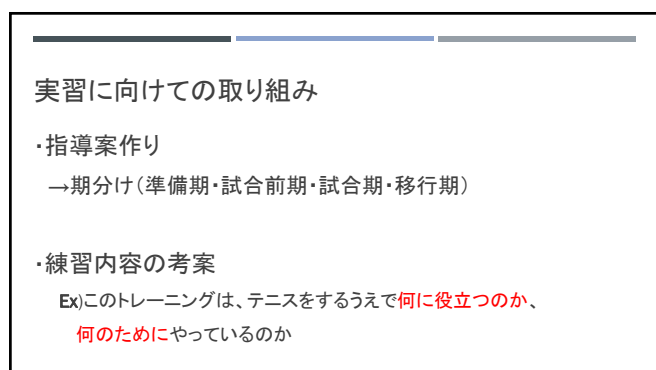
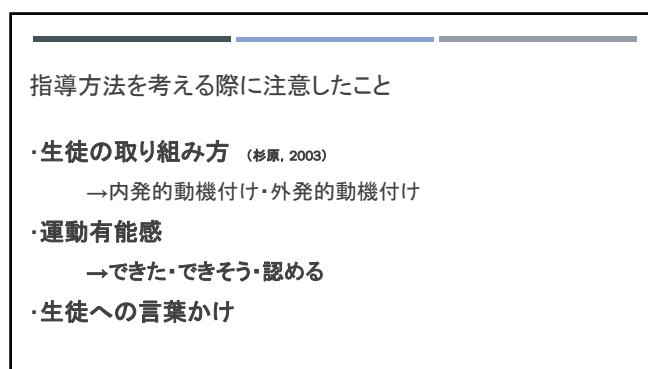
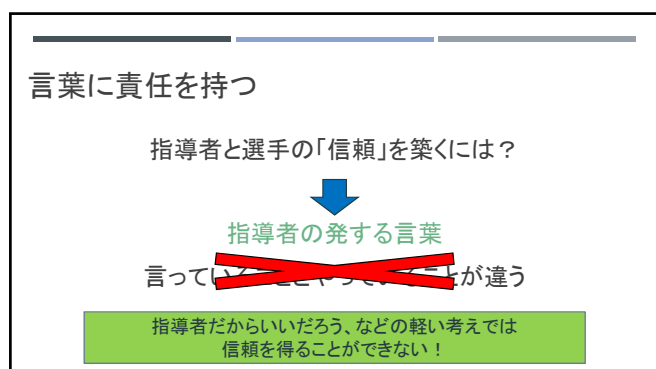
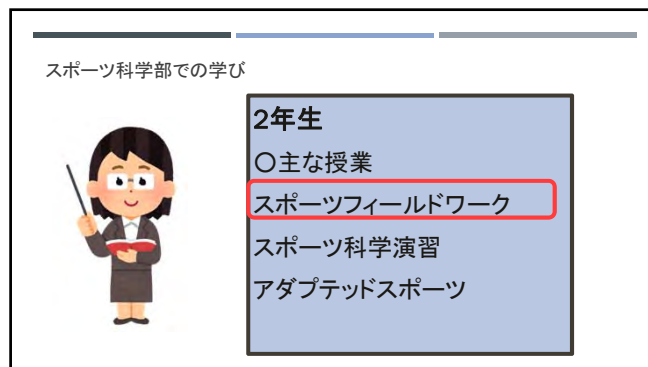
これまでの学びを通して

- ▶ スポーツに関する知識を習得し、研究手法を理解、実践する力を身に付ける

自分らしく輝ける、素敵な社会人に！

ご清聴ありがとうございました

3日間、よろしくお願いします！



準備

- ・体幹を鍛える
- ・ジャンプ力を高める
- ・視野を広げる



実習の様子



ハンドボール班 まとめ

〈指導内容〉

- 体幹メニューなど 今後も続けられるトレーニングを提供することができた。
- トレーニングを行う意味を明確にすることで良いトレーニングを行うことができた。

〈指導方法〉

- 周りで見守るより、生徒に混ざって一緒にトレーニングしながら指導の方が伝わりやすい事が分かった。

全体を通して

スポーツ科学部だからこそできる指導

- ★「できる」と「わかる」
- ★言葉かけの重要性
- ★経験則から脱した指導案作り
- ★年齢に合った練習メニュー

専門としていない種目でも同じ



障がい者スポーツボランティアを通して



名古屋市障害者スポーツ大会



ボランティアを通して

これまでの学びを活かせる場

- ★「頑張ってください」などの声かけ
- ★審判として競技に携わることができる
- ★新たな知識を得られる



3日間よろしくお
願いします。



2020.2.20

Nihon Fukushi University

ユニバーサルスポーツについて

日本福祉大学 児玉 友(こだま ゆう)

ユニバーサルスポーツの条件

誰もが参加できること

勝敗のあるスポーツの場合、
誰にも勝つチャンスがあること

体格
体力
障がい

→

できるだけ
左右されない

遊びの要素

- ① 競争(アゴン) サッカーなどスポーツ競技全般
勝利という価値を得るために、相手と競い合って遊ぶこと
- ② 偶然(アレア)じゃんけん・くじ・ルーレットなど
自分の努力とは無関係
- ③ 模擬(ミムクリ)ダンス・ものまねなど
何かを演じて遊ぶこと、他者になる、他者であるかに思わせる
- ④ 眩暈(イリンクス)パラシュート・すべり台など
混乱を楽しむこと

ロジェ・カイヨワ (Roger Caillois)『遊びと人間』

内発的な動機づけ

- ① 自分にもできると感じられる(自己有能感)
- ② 自分で主体的に参加している、決定していると感じられる(自己効力感)
- ③ 他者に認められている、仲間と参加していると感じられる(受容感)
- ④ もっとスポーツを知りたい、学びたいと感じられる(知的好奇心への刺激)

新しいスポーツ創りのポイント1

1. 目的
ウォーミングアップ、友達づくり、体力づくり、発達を促す など
2. 対象者の特徴
障害の内容、年齢(生活、発達年齢)、性別、人数 など
3. 柔軟な発想
4. 実施場所の環境(予算)
5. 実施時のスタッフ体制・参加者の参加形態
広さ、使える用具、その他の環境
6. スポーツへの動機づけ
自己有能感、自己効力感・自己決定感、受容感、知的好奇心への刺激
7. できることを生かす

発想の転換のためのチェックリスト

視点	考え方(卓球の場合)
代用	他の材料、他の場所、代用品 ・ラケットをうちわにする ・外で行う
統合	組合せ、障がいの有無 ・複数人で行う ・健常者と障がい者でダブルスを組む
応用	ルール変更、他競技のルールを真似る ・ダブルスの際、どちらが打球してもよい ・2バウンドにする
拡大	何かを付け加える、増やす ・コートを大きくする ・回数や時間を増やす
縮小	シンプル、小さく、少なく ・既存のルールから、シンプルなルールに変更する ・障がいの重い側の卓球台を小さくする
転用	他の使い道、新しい用途 ・他競技で卓球のラケットを使えないか ・卓球台と卓球ボールでビリヤードをする
逆転	順番、役割、勝敗、上下逆 ・ボールのバウンド数を競う ・ネットの下を潜らせてラリーをする

新しいスポーツ創りのポイント2



- ① 一人で悩まない
→ チームで取り組む
- ② 出た意見は否定しない
→ 否定ではなくその上をいく創造
- ③ 考えてばかりじゃダメ
→ 実際にやってみる
- ④ 最初からうまくいくはずがない
→ トライアンドエラーの繰り返し
- ⑤ 正しい方法はない
→ できるだけいい方法を見つける



アイデアの出し方



- ① 進行役の選出
→ 発言しやすい雰囲気づくり
発言が出にくかったら意見を求めたり自分で意見を出す
- ② アイデアを書き出す
- ③ アイデアを分類
→ 似たようなアイデアをまとめてカテゴリーをつくる
カテゴリー名は班のメンバーで考える
- ④ アイデアをまとめる
→ 実現の可能性や当日の対象者などの観点から決定する
誰が何を行うかなどの役割を考えておく

5.グループワーク

(1)テーマ 「放課後等デイサービス事業所向けの運動会を想定したユニバーサル競技」

参加者の想定

50名想定

道具ありと道具なしの2パターンで作成

グループA/グループB：パラシュート使用

グループC:風船使用

グループD：キンボール使用



6.モデルプログラム

放課後等デイサービス4施設（31人の障がい児と15人の職員・付添 合計46名の参加）

(1)opening 11:00～

司会：寺西 恒介さん（日本福祉大学）/中山 龍星さん（西九州大学）

(2)ダンスたいそう

音楽に合わせて、全身のストレッチをしながら踊る。



(3) プロポーズだいさくせん

丸い円で整列し、2人組を作る。円の中央にお題を出す人がいて、お題に自分があてはまる時に、中央に集まり、別の人と二人組で円に戻る。二人組になれなかった1人がまたくじ引きをしてお題を出す。その繰り返し。



(4)パウンドホッケー

2チームに分かれて行う。2人ずつジグザグに並ぶ。ジグザグにキンボール2人で転がし押し渡していく（行き）ジグザグでは無く、間隔を狭め一気に押し渡す（帰り）最後の人が的に当てる。（当たると絵が起き上がる）全員で描かれている絵柄を答える。



(5)ボールリレー

2人組のリレーで2チームの対戦形式で行う。2人でボールを挟んで、先にある別の色のボールを交換して戻ってくる。途中でパラシュートをくくる。



(6)クルクルパラシュート

パラシュートを複数人で持ち、音楽が流れている間動かす。笛が1回「右回し」2回「左回し」長い笛「バタバタ」。音楽を止めて色を指定し、指定された色に集まる。みんなが集まったら、「せーの！」で膨らませ、中に入ってしまう。

